

8 月度の総括

進学塾ビッグバン

J'avais vingt ans. Je ne laisserai personne dire que c'est le plus bel âge de la vie

僕は 20 歳だった。これがこの世で一番美しい時代だなどと、誰にも言わせまい。

———ポール・ニザン「アデン・アラビア」———

ポール・ニザンは 1905 年フランス・トゥール (Tours) で生まれ、第二次大戦中の 1940 年にダンケルクで戦死した革命家で詩人です。フランスの共産黨員でしたが、独ソ不可侵条約 (1939 年) に反対して脱党したため、戦後に共産党から裏切り者として誹謗中傷を浴びました。反抗を貫いた彼の生涯は 1960 年代になって党外の反体制派によって再発見され、作品も復刊され、日本においては 60 年代後半の全共闘世代によって熱烈な支持を獲得し、彼らに大きな影響を与えました。この有名な一文は、彼が 20 歳の時に輸出入業者 Antonin Besse に家庭教師として招かれたアラビア半島南端の国イエメン・アデンでの「20 歳の情熱の^{ほむら}焰と^{ほかげ}火影」を端的に語ったものです。同じ年ごろの皆さんには、この若さゆえの驕りに満ちた詩句がどう響くでしょうか。私は、若い時分は、一定の道徳と品さえ守られれば、いくら誇らしく、驕り高ぶった思いを抱いてもいいと思うのです。

「自分ほどできるやつはいない。」「自分ほど美しい人はいない。」「自分ほど強いやつはいない。」楽観的に、おおらかに、傍目を気にせず、自由にそう叫びたいと誰もが思います。そしてこんな思いを、一瞬であれ、若い時分に抱ける人はそれだけで幸せですし、それが時には本当にそうであったりするわけですし、そのときはそうでなくても実際そうになったりすることもあるわけです。けれど、もしこういう思いを何の裏づけも証拠もないまま揚言して、世間から物笑いの種にならない条件があるとするなら、それは、その人の才能と品のなせるわざである、と言えるでしょう。

ボクシングの亀田兄弟の言動が失笑を買うのは、言葉やしぐさに才能も品も感じられないからであり、ハンカチ王子やハニカミ王子のインタビューの際の言葉に気の毒なほどの不自由さを感じるのは、彼らが言葉を通じて世間との折り合いの仕方に自信を持つほど成熟していないからでしょう。

ではポール・ニザンはなぜ愛されたか。彼が艱難辛苦の末報われず、しかも若死にしたという悲劇が読者の根底にある種の優越感を与えていることが前提になっているからではないでしょうか。日本人でも、無様で不幸な生き方・死に方をした太宰治や中原中也がいつまでも愛されるのと、たとえばかっこよく、何事も恵まれた人生を歩み続けた作家・石原慎太郎が仮にこのまま死んでも、おそらく死後は愛され続けられないだろう、という対比を考えればわかります。

皆さんは医師を目指しています。医師になったとき、医師であるという事実をどう嫌味なく世間に向けて表出するか、を考えたことはありますか。ことに弱い立場である患者に、どう最もいい形で表出し続けるか、これは医師としての永遠の課題かもしれません。嫌味なく伝える方法とは、すいすいと努力せずに医者になれた、そういう才能の持ち主だ、というより、めっちゃめっちゃ努力した、それがやっと報われた、馬鹿だけどころかそういう努力する才能に恵まれていたんです、という風をあたりにまきちらす方がいいことは申すまでもありません。今の皆さんの努力は、ある意味、将来医師として、血を吐くような努力の末に医師としての地位と名誉と報酬を獲得したのだ、と言うための準備という側面もあると思うのです。

8月のビッグバンはほとんどが夏期講習で明け暮れました。レギュラー授業に夏から始めた「テーマ個別」を加えてさらなる実力養成と弱点補強を目指す、そして、生物科を除いて（生物科は9月下旬に完了します）、どの科目もこの月のうちに1回目をひと通り完了する、という方針でした。スケジュール的にはうまくいったようです。夏はどこで過ごすよりも、空調設備の整った塾内で朝から晩まで勉強して過ごすに越したことはありません。4月から長時間勉強する習慣が身に付いた人にとっては、何のためらいもなく塾で朝から晩まで、というのがいいに決まっています。多くの人が夏をそのように過ごしたことを以って、ビッグバン生全体の實力は、学校や、他予備校でこまぎれ的に講習会をとった受験生より、はるかに向上しています。ところがビッグバン内部での相対評価は当然上がっておらず、2学期のクラス分けテストでは上のクラスに行けないどころか、下のクラスに落ちた、と嘆く人を多く見かけました。嘆く必要はないのです。大手予備校で12月に初めて習うことをビッグバン生はすでに8月までに習い終えた、いやむしろ、それだけ詰め込み式に習わされた、覚えさせられた、というのが真相です。

私はよくこれを引っ越し作業に例えるのですが、大きな家、大きな部屋に引っ越したばかりの時は、荷物を乱雑に運び込んだばかりなので、以前暮らしていた狭い小さな部屋よりかえって住みにくい、前の部屋のほうがよかった、と思うはずですが。つまり知識を詰め込んだばかりの時は、一瞬成績が落ちた気がするのです。成績は、知識が整頓されて初めて数字に表れるものですから、整頓されない間は住むのに不自由な乱雑な部屋と同じく、答案には不自由な解答しか書けないのです。

クラスの落ちた生徒は、現役の時に勉強していなかった1浪生か、多浪生でもこれまでほとんど勉強していなかった、今年初めて勉強らしい勉強を始めた人がほとんどでした。それは上記に述べた理由によるものです。

あとは、残り最低2回は同じ単元を繰り返すわけですから、その間にしっかりと知識を整頓し、深め、住み心地のいい部屋にして本番を迎えるべきです。

8月はやはり体調を崩した人も多く出ました。多くは食あたり、暑気あたりが原因でした。また夏までに自転車事故など、軽微ではありましたが事故も多発しました。そこで、8月23日に三島鴨神社から宮司さんに御祓いに来てもらいました。

夏期講習の真っ最中のマーク模試の成績はいかがだったでしょうか。時間配分がうまくいかなかった、という声も聞かれました。あとから復習してみて一つ一つの単元はよくわかるのに全体をうまく時間を使って過不足なく解く、ということができなかった、時間が足りなかった、という声でした。

その原因はもう少し分析する必要があります。たとえば、英語で文法・語法問題を解くのに、5分でほとんど条件反射的に解かねばならないのに、理詰めで時間をかけて解く段階からまだ脱却・発達していないために、正解は出せても出すまでが遅いことがあります。すると、じっくり時間をかけねばならない長文問題などに時間をかけられず、配点の高いそうした長文問題で大きく失点することになります。当然1ヵ月後に戻ってくるコンピューター判定では、「あなたは長文が苦手ですから長文対策をしっかりとってください。」といった文言が載っています。1ヶ月前の模試受験状況は自分のことさえほとんどの人は忘れていきますから、ああ、自分の課題は長文なのだ、と勘違いしてしまうのです。けれども、真相は、その人の実力は、まだまだ文法・語法問題が条件反射で解けるほどに至っていない、不十分な力でしかないということなのです。

こうした勘違いを是正するために、ビッグバンでは模試の直後に、マーク模試なら自己採点、記述模試ならビッグバン講師が独自で採点し、1ヵ月後に公式の判定が戻って来るずいぶん前に助言と対策を与えることにしています。ですから、1ヵ月後にどんなひどい判定が戻ってこようと、その間に十分な対策を施されており、本人も努力していれば、結果そのものに一喜一憂することはありません。模試判定に一喜一憂するな、とはそういう意味なのです。

8月26日は、医系大学をお招きしての「大学フェア」を開催しました。関西4私立医系大に加え、岩手医科大、東京女子医科大、神奈川歯科大、麻布大、愛知医科大、朝日大、福岡大医学部が参加してくれました。08年度入試は、大阪医科大学が前期・後期の2回入試を行うことになり、その傾向と対策を参加生徒とその親御さんたちは固唾を呑んで聞いていました。別日程とはいえ後期試験をぶつけられることになった近畿大医学部や、福岡大学や兵庫医科大学2次試験日が重なり、さらに英語入試傾向が変わることを明言している関西医科大学、09年度から試験日程を大幅に変えることを明言している兵庫医科大学からは、今回のブース形式ならではの「濃い」情報を得ることができました。開催後、何人かの親御さんからは、「来てよかった。」「いい情報を知る場を与えていただきありがとうございます。」「ありがとうございました。」というお褒めのことばをいただき、スタッフ一同感激いたしました。「あ

とは本人の努力だけですね。」という締めくくりも共通のお言葉で、これまたスタッフ一同、よりいっそう襟を正し、生徒への厳しく暖かい指導：「集団には厳しく、個人には優しく！」を実践していこうと誓い合いました。

8月31日。2学期クラス分け発表のこの日には、ことに下のクラスに落とされて打ちひしがれた身に事務員スタッフ一同から、スープと家庭料理が振舞われました。前期終了時と同じ、ビッグバン事務員からの自発的な発案と実践で、私は経営者としてこの上なくうれしくありがたく思い、かつ、このように愛される運命を持ったビッグバン生たちの今後になおいっそう幸あれ、と願った次第でした。

クラス分けテストはこれが最後ではありません。下のクラスに落ちたからといって成績が落ちたわけではありません。相対的に他のビッグバン生より下であるといっても、他の予備校に行ったらと過ごしている人より数段勝っていることは確かです。あと最低2回繰り返します。足りないところは補い、わかったところはさらに深化させて、冬からの大学別のトレーニングに耐えられるよう実力を養成しておいてください。冬期講習会前の最後のクラス分けテストに備えてください。

2学期に入り、早速、9月30日(日)には、大阪医科大学キャンパスにて「進学塾ビッグバンによる“大阪医科大学・入試問題解説—数学—”」が行われます。当塾の誇る、数学科：佐々木講師による120分間の数学講義です。ビッグバンの生徒だけではなく、それこそ大阪医科大学を受験する生徒が全国から集まります。生徒はもちろんですが、できましたらご両親様も当キャンパスにお出ましになり、ビッグバン：佐々木講師の珠玉の講義を受講されたらいかがでしょう。わが子の受験の苦労を少しでも分かち合うこともできようかと存じます。去年は、参加された保護者の方から「久しぶりに受験時代を思い出し、血が騒いだ。」「数学の解き方も時代とともに変化するんだねえ。」などといった感想をいただき、失礼ながら大変ほほえましく感じさせていただきました。

医系大学の入試日程が出そろって参りました。それを踏まえ、10月14日(日)は、第3回保護者会を開催させていただきます。受験校を決定する最も重要な保護者会です。万障繰り合わせのうえ、ぜひともご参加いただけますようお願い申し上げます。

2007年9月10日

進学塾ビッグバン 松原好之(文責)

8 月度の総括

進学塾ビッグバン

J'avais vingt ans. Je ne laisserai personne dire que c'est le plus bel âge de la vie

僕は 20 歳だった。これがこの世で一番美しい時代だなどと、誰にも言わせまい。

———ポール・ニザン「アデン・アラビア」———

ポール・ニザンは 1905 年フランス・トゥール (Tours) で生まれ、第二次大戦中の 1940 年にダンケルクで戦死した革命家で詩人です。フランスの共産黨員でしたが、独ソ不可侵条約 (1939 年) に反対して脱党したため、戦後に共産党から裏切り者として誹謗中傷を浴びました。反抗を貫いた彼の生涯は 1960 年代になって党外の反体制派によって再発見され、作品も復刊され、日本においては 60 年代後半の全共闘世代によって熱烈な支持を獲得し、彼らに大きな影響を与えました。この有名な一文は、彼が 20 歳の時に輸出入業者 Antonin Besse に家庭教師として招かれたアラビア半島南端の国イエメン・アデンでの「20 歳の情熱の^{ほむら}焰と^{ほかげ}火影」を端的に語ったものです。同じ年ごろの皆さんには、この若さゆえの驕りに満ちた詩句がどう響くでしょうか。私は、若い時分は、一定の道徳と品さえ守られれば、いくら誇らしく、驕り高ぶった思いを抱いてもいいと思うのです。

「自分ほどできるやつはいない。」「自分ほど美しい人はいない。」「自分ほど強いやつはいない。」楽観的に、おおらかに、傍目を気にせず、自由にそう叫びたいと誰もが思います。そしてこんな思いを、一瞬であれ、若い時分に抱ける人はそれだけで幸せですし、それが時には本当にそうであったりするわけですし、そのときはそうでなくても実際そうになったりすることもあるわけです。けれど、もしこういう思いを何の裏づけも証拠もないまま揚言して、世間から物笑いの種にならない条件があるとするなら、それは、その人の才能と品のなせるわざである、と言えるでしょう。

ボクシングの亀田兄弟の言動が失笑を買うのは、言葉やしぐさに才能も品も感じられないからであり、ハンカチ王子やハニカミ王子のインタビューの際の言葉に気の毒なほどの不自由さを感じるのは、彼らが言葉を通じて世間との折り合いの仕方に自信を持つほど成熟していないからでしょう。

ではポール・ニザンはなぜ愛されたか。彼が艱難辛苦の末報われず、しかも若死にしたという悲劇が読者の根底にある種の優越感を与えていることが前提になっているからではないでしょうか。日本人でも、無様で不幸な生き方・死に方をした太宰治や中原中也がいつまでも愛されるのと、たとえばかっこよく、何事も恵まれた人生を歩み続けた作家・石原慎太郎が仮にこのまま死んでも、おそらく死後は愛され続けられないだろう、という対比を考えればわかります。

皆さんは医師を目指しています。医師になったとき、医師であるという事実をどう嫌味なく世間に向けて表出するか、を考えたことはありますか。ことに弱い立場である患者に、どう最もいい形で表出し続けるか、これは医師としての永遠の課題かもしれません。嫌味なく伝える方法とは、すいすいと努力せずに医者になれた、そういう才能の持ち主だ、というより、めっちゃめっちゃ努力した、それがやっと報われた、馬鹿だけどころそういう努力する才能に恵まれていたんです、という風をあたりにまきちらす方がいいことは申すまでもありません。今の皆さんの努力は、ある意味、将来医師として、血を吐くような努力の末に医師としての地位と名誉と報酬を獲得したのだ、と言うための準備という側面もあると思うのです。

8月のビッグバンはほとんどが夏期講習で明け暮れました。レギュラー授業に夏から始めた「テーマ個別」を加えてさらなる実力養成と弱点補強を目指す、そして、生物科を除いて（生物科は9月下旬に完了します）、どの科目もこの月のうちに1回目をひと通り完了する、という方針でした。スケジュール的にはうまくいったようです。夏はどこで過ごすよりも、空調設備の整った塾内で朝から晩まで勉強して過ごすに越したことはありません。4月から長時間勉強する習慣が身に付いた人にとっては、何のためらいもなく塾で朝から晩まで、というのがいいに決まっています。多くの人が夏をそのように過ごしたことを以って、ビッグバン生全体の實力は、学校や、他予備校でこまぎれ的に講習会をとった受験生より、はるかに向上しています。ところがビッグバン内部での相対評価は当然上がっておらず、2学期のクラス分けテストでは上のクラスに行けないどころか、下のクラスに落ちた、と嘆く人を多く見かけました。嘆く必要はないのです。大手予備校で12月に初めて習うことをビッグバン生はすでに8月までに習い終えた、いやむしろ、それだけ詰め込み式に習わされた、覚えさせられた、というのが真相です。

私はよくこれを引っ越し作業に例えるのですが、大きな家、大きな部屋に引っ越したばかりの時は、荷物を乱雑に運び込んだばかりなので、以前暮らしていた狭い小さな部屋よりかえって住みにくい、前の部屋のほうがよかった、と思うはずですが。つまり知識を詰め込んだばかりの時は、一瞬成績が落ちた気がするのです。成績は、知識が整頓されて初めて数字に表れるものですから、整頓されない間は住むのに不自由な乱雑な部屋と同じく、答案には不自由な解答しか書けないのです。

クラスの落ちた生徒は、現役の時に勉強していなかった1浪生か、多浪生でもこれまでほとんど勉強していなかった、今年初めて勉強らしい勉強を始めた人がほとんどでした。それは上記に述べた理由によるものです。

あとは、残り最低2回は同じ単元を繰り返すわけですから、その間にしっかりと知識を整頓し、深め、住み心地のいい部屋にして本番を迎えるべきです。

8月はやはり体調を崩した人も多く出ました。多くは食あたり、暑気あたりが原因でした。また夏までに自転車事故など、軽微ではありましたが事故も多発しました。そこで、8月23日に三島鴨神社から宮司さんに御祓いに来てもらいました。

夏期講習の真っ最中のマーク模試の成績はいかがだったでしょうか。時間配分がうまくいかなかった、という声も聞かれました。あとから復習してみて一つ一つの単元はよくわかるのに全体をうまく時間を使って過不足なく解く、ということができなかった、時間が足りなかった、という声でした。

その原因はもう少し分析する必要があります。たとえば、英語で文法・語法問題を解くのに、5分でほとんど条件反射的に解かねばならないのに、理詰めで時間をかけて解く段階からまだ脱却・発達していないために、正解は出せても出すまでが遅いことがあります。すると、じっくり時間をかけねばならない長文問題などに時間をかけられず、配点の高いそうした長文問題で大きく失点することになります。当然1ヵ月後に戻ってくるコンピューター判定では、「あなたは長文が苦手ですから長文対策をしっかりとってください。」といった文言が載っています。1ヶ月前の模試受験状況は自分のことさえほとんどの人は忘れていきますから、ああ、自分の課題は長文なのだ、と勘違いしてしまうのです。けれども、真相は、その人の実力は、まだまだ文法・語法問題が条件反射で解けるほどに至っていない、不十分な力でしかないということなのです。

こうした勘違いを是正するために、ビッグバンでは模試の直後に、マーク模試なら自己採点、記述模試ならビッグバン講師が独自で採点し、1ヵ月後に公式の判定が戻って来るずいぶん前に助言と対策を与えることにしています。ですから、1ヵ月後にどんなひどい判定が戻ってこようと、その間に十分な対策を施されており、本人も努力していれば、結果そのものに一喜一憂することはありません。模試判定に一喜一憂するな、とはそういう意味なのです。

8月26日は、医系大学をお招きしての「大学フェア」を開催しました。関西4私立医系大に加え、岩手医科大、東京女子医科大、神奈川歯科大、麻布大、愛知医科大、朝日大、福岡大医学部が参加してくれました。08年度入試は、大阪医科大学が前期・後期の2回入試を行うことになり、その傾向と対策を参加生徒とその親御さんたちは固唾を呑んで聞いていました。別日程とはいえ後期試験をぶつけられることになった近畿大医学部や、福岡大学や兵庫医科大学2次試験日が重なり、さらに英語入試傾向が変わることを明言している関西医科大学、09年度から試験日程を大幅に変えることを明言している兵庫医科大学からは、今回のブース形式ならではの「濃い」情報を得ることができました。開催後、何人かの親御さんからは、「来てよかった。」「いい情報を知る場を与えていただきありがとうございます。」「ありがとうございました。」というお褒めのことばをいただき、スタッフ一同感激いたしました。「あ

とは本人の努力だけですね。」という締めくくりも共通のお言葉で、これまたスタッフ一同、よりいっそう襟を正し、生徒への厳しく暖かい指導：「集団には厳しく、個人には優しく！」を実践していこうと誓い合いました。

8月31日。2学期クラス分け発表のこの日には、ことに下のクラスに落とされて打ちひしがれた身に事務員スタッフ一同から、スープと家庭料理が振舞われました。前期終了時と同じ、ビッグバン事務員からの自発的な発案と実践で、私は経営者としてこの上なくうれしくありがたく思い、かつ、このように愛される運命を持ったビッグバン生たちの今後になおいっそう幸あれ、と願った次第でした。

クラス分けテストはこれが最後ではありません。下のクラスに落ちたからといって成績が落ちたわけではありません。相対的に他のビッグバン生より下であるといっても、他の予備校に行ったらと過ごしている人より数段勝っていることは確かです。あと最低2回繰り返します。足りないところは補い、わかったところはさらに深化させて、冬からの大学別のトレーニングに耐えられるよう実力を養成しておいてください。冬期講習会前の最後のクラス分けテストに備えてください。

2学期に入り、早速、9月30日(日)には、大阪医科大学キャンパスにて「進学塾ビッグバンによる“大阪医科大学・入試問題解説—数学—”」が行われます。当塾の誇る、数学科：佐々木講師による120分間の数学講義です。ビッグバンの生徒だけではなく、それこそ大阪医科大学を受験する生徒が全国から集まります。生徒はもちろんですが、できましたらご両親様も当キャンパスにお出ましになり、ビッグバン：佐々木講師の珠玉の講義を受講されたらいかがでしょう。わが子の受験の苦労を少しでも分かち合うこともできようかと存じます。去年は、参加された保護者の方から「久しぶりに受験時代を思い出し、血が騒いだ。」「数学の解き方も時代とともに変化するんだねえ。」などといった感想をいただき、失礼ながら大変ほほえましく感じさせていただきました。

医系大学の入試日程が出そろって参りました。それを踏まえ、10月14日(日)は、第3回保護者会を開催させていただきます。受験校を決定する最も重要な保護者会です。万障繰り合わせのうえ、ぜひともご参加いただけますようお願い申し上げます。

2007年9月10日

進学塾ビッグバン 松原好之(文責)

8 月度の総括

進学塾ビッグバン

J'avais vingt ans. Je ne laisserai personne dire que c'est le plus bel âge de la vie

僕は 20 歳だった。これがこの世で一番美しい時代だなどと、誰にも言わせまい。

———ポール・ニザン「アデン・アラビア」———

ポール・ニザンは 1905 年フランス・トゥール (Tours) で生まれ、第二次大戦中の 1940 年にダンケルクで戦死した革命家で詩人です。フランスの共産黨員でしたが、独ソ不可侵条約 (1939 年) に反対して脱党したため、戦後に共産党から裏切り者として誹謗中傷を浴びました。反抗を貫いた彼の生涯は 1960 年代になって党外の反体制派によって再発見され、作品も復刊され、日本においては 60 年代後半の全共闘世代によって熱烈な支持を獲得し、彼らに大きな影響を与えました。この有名な一文は、彼が 20 歳の時に輸出入業者 Antonin Besse に家庭教師として招かれたアラビア半島南端の国イエメン・アデンでの「20 歳の情熱の^{ほむら}焰と^{ほかげ}火影」を端的に語ったものです。同じ年ごろの皆さんには、この若さゆえの驕りに満ちた詩句がどう響くでしょうか。私は、若い時分は、一定の道德と品さえ守られれば、いくら誇らしく、驕り高ぶった思いを抱いてもいいと思うのです。

「自分ほどできるやつはいない。」「自分ほど美しい人はいない。」「自分ほど強いやつはいない。」楽観的に、おおらかに、傍目を気にせず、自由にそう叫びたいと誰もが思います。そしてこんな思いを、一瞬であれ、若い時分に抱ける人はそれだけで幸せですし、それが時には本当にそうであったりするわけですし、そのときはそうでなくても実際そうになったりすることもあるわけです。けれど、もしこういう思いを何の裏づけも証拠もないまま揚言して、世間から物笑いの種にならない条件があるとするなら、それは、その人の才能と品のなせるわざである、と言えるでしょう。

ボクシングの亀田兄弟の言動が失笑を買うのは、言葉やしぐさに才能も品も感じられないからであり、ハンカチ王子やハニカミ王子のインタビューの際の言葉に気の毒なほどの不自由さを感じるのは、彼らが言葉を通じて世間との折り合いの仕方に自信を持つほど成熟していないからでしょう。

ではポール・ニザンはなぜ愛されたか。彼が艱難辛苦の末報われず、しかも若死にしたという悲劇が読者の根底にある種の優越感を与えていることが前提になっているからではないでしょうか。日本人でも、無様で不幸な生き方・死に方をした太宰治や中原中也がいつまでも愛されるのと、たとえばかっこよく、何事も恵まれた人生を歩み続けた作家・石原慎太郎が仮にこのまま死んでも、おそらく死後は愛され続けられないだろう、という対比を考えればわかります。

皆さんは医師を目指しています。医師になったとき、医師であるという事実をどう嫌味なく世間に向けて表出するか、を考えたことはありますか。ことに弱い立場である患者に、どう最もいい形で表出し続けるか、これは医師としての永遠の課題かもしれません。嫌味なく伝える方法とは、すいすいと努力せずに医者になれた、そういう才能の持ち主だ、というより、めっちゃめっちゃ努力した、それがやっと報われた、馬鹿だけどころかそういう努力する才能に恵まれていたんです、という風をあたりにまきちらす方がいいことは申すまでもありません。今の皆さんの努力は、ある意味、将来医師として、血を吐くような努力の末に医師としての地位と名誉と報酬を獲得したのだ、と言うための準備という側面もあると思うのです。

8月のビッグバンはほとんどが夏期講習で明け暮れました。レギュラー授業に夏から始めた「テーマ個別」を加えてさらなる実力養成と弱点補強を目指す、そして、生物科を除いて（生物科は9月下旬に完了します）、どの科目もこの月のうちに1回目をひと通り完了する、という方針でした。スケジュール的にはうまくいったようです。夏はどこで過ごすよりも、空調設備の整った塾内で朝から晩まで勉強して過ごすに越したことはありません。4月から長時間勉強する習慣が身に付いた人にとっては、何のためらいもなく塾で朝から晩まで、というのがいいに決まっています。多くの人が夏をそのように過ごしたことを以って、ビッグバン生全体の實力は、学校や、他予備校でこまぎれ的に講習会をとった受験生より、はるかに向上しています。ところがビッグバン内部での相対評価は当然上がっておらず、2学期のクラス分けテストでは上のクラスに行けないどころか、下のクラスに落ちた、と嘆く人を多く見かけました。嘆く必要はないのです。大手予備校で12月に初めて習うことをビッグバン生はすでに8月までに習い終えた、いやむしろ、それだけ詰め込み式に習わされた、覚えさせられた、というのが真相です。

私はよくこれを引っ越し作業に例えるのですが、大きな家、大きな部屋に引っ越したばかりの時は、荷物を乱雑に運び込んだばかりなので、以前暮らしていた狭い小さな部屋よりかえって住みにくい、前の部屋のほうがよかった、と思うはずですが。つまり知識を詰め込んだばかりの時は、一瞬成績が落ちた気がするのです。成績は、知識が整頓されて初めて数字に表れるものですから、整頓されない間は住むのに不自由な乱雑な部屋と同じく、答案には不自由な解答しか書けないのです。

クラスの落ちた生徒は、現役の時に勉強していなかった1浪生か、多浪生でもこれまでほとんど勉強していなかった、今年初めて勉強らしい勉強を始めた人がほとんどでした。それは上記に述べた理由によるものです。

あとは、残り最低2回は同じ単元を繰り返すわけですから、その間にしっかりと知識を整頓し、深め、住み心地のいい部屋にして本番を迎えるべきです。

8月はやはり体調を崩した人も多く出ました。多くは食あたり、暑気あたりが原因でした。また夏までに自転車事故など、軽微ではありましたが事故も多発しました。そこで、8月23日に三島鴨神社から宮司さんに御祓いに来てもらいました。

夏期講習の真っ最中のマーク模試の成績はいかがだったでしょうか。時間配分がうまくいかなかった、という声も聞かれました。あとから復習してみて一つ一つの単元はよくわかるのに全体をうまく時間を使って過不足なく解く、ということができなかった、時間が足りなかった、という声でした。

その原因はもう少し分析する必要があります。たとえば、英語で文法・語法問題を解くのに、5分でほとんど条件反射的に解かねばならないのに、理詰めで時間をかけて解く段階からまだ脱却・発達していないために、正解は出せても出すまでが遅いことがあります。すると、じっくり時間をかけねばならない長文問題などに時間をかけられず、配点の高いそうした長文問題で大きく失点することになります。当然1ヵ月後に戻ってくるコンピューター判定では、「あなたは長文が苦手ですから長文対策をしっかりしてください。」といった文言が載っています。1ヶ月前の模試受験状況は自分のことさえほとんどの人は忘れていきますから、ああ、自分の課題は長文なのだ、と勘違いしてしまうのです。けれども、真相は、その人の実力は、まだまだ文法・語法問題が条件反射で解けるほどに至っていない、不十分な力でしかないということなのです。

こうした勘違いを是正するために、ビッグバンでは模試の直後に、マーク模試なら自己採点、記述模試ならビッグバン講師が独自で採点し、1ヵ月後に公式の判定が戻って来ずいぶん前に助言と対策を与えることにしています。ですから、1ヵ月後にどんなひどい判定が戻ってこようと、その間に十分な対策を施されており、本人も努力していれば、結果そのものに一喜一憂することはありません。模試判定に一喜一憂するな、とはそういう意味なのです。

8月26日は、医系大学をお招きしての「大学フェア」を開催しました。関西4私立医系大に加え、岩手医科大、東京女子医科大、神奈川歯科大、麻布大、愛知医科大、朝日大、福岡大医学部が参加してくれました。08年度入試は、大阪医科大学が前期・後期の2回入試を行うことになり、その傾向と対策を参加生徒とその親御さんたちは固唾を呑んで聞いていました。別日程とはいえ後期試験をぶつけられることになった近畿大医学部や、福岡大学や兵庫医科大学2次試験日が重なり、さらに英語入試傾向が変わることを明言している関西医科大学、09年度から試験日程を大幅に変えることを明言している兵庫医科大学からは、今回のブース形式ならではの「濃い」情報を得ることができました。開催後、何人かの親御さんからは、「来てよかった。」「いい情報を知る場を与えていただきありがとうございます。」「ありがとうございました。」というお褒めのことばをいただき、スタッフ一同感激いたしました。「あ

とは本人の努力だけですね。」という締めくくりも共通のお言葉で、これまたスタッフ一同、よりいっそう襟を正し、生徒への厳しく暖かい指導：「集団には厳しく、個人には優しく！」を実践していこうと誓い合いました。

8月31日。2学期クラス分け発表のこの日には、ことに下のクラスに落とされて打ちひしがれた身に事務員スタッフ一同から、スープと家庭料理が振舞われました。前期終了時と同じ、ビッグバン事務員からの自発的な発案と実践で、私は経営者としてこの上なくうれしくありがたく思い、かつ、このように愛される運命を持ったビッグバン生たちの今後になおいっそう幸あれ、と願った次第でした。

クラス分けテストはこれが最後ではありません。下のクラスに落ちたからといって成績が落ちたわけではありません。相対的に他のビッグバン生より下であるといっても、他の予備校に行ったらと過ごしている人より数段勝っていることは確かです。あと最低2回繰り返します。足りないところは補い、わかったところはさらに深化させて、冬からの大学別のトレーニングに耐えられるよう実力を養成しておいてください。冬期講習会前の最後のクラス分けテストに備えてください。

2学期に入り、早速、9月30日(日)には、大阪医科大学キャンパスにて「進学塾ビッグバンによる“大阪医科大学・入試問題解説—数学—”」が行われます。当塾の誇る、数学科：佐々木講師による120分間の数学講義です。ビッグバンの生徒だけではなく、それこそ大阪医科大学を受験する生徒が全国から集まります。生徒はもちろんですが、できましたらご両親様も当キャンパスにお出ましになり、ビッグバン：佐々木講師の珠玉の講義を受講されたらいかがでしょう。わが子の受験の苦労を少しでも分かち合うこともできようかと存じます。去年は、参加された保護者の方から「久しぶりに受験時代を思い出し、血が騒いだ。」「数学の解き方も時代とともに変化するんだねえ。」などといった感想をいただき、失礼ながら大変ほほえましく感じさせていただきました。

医系大学の入試日程が出そろって参りました。それを踏まえ、10月14日(日)は、第3回保護者会を開催させていただきます。受験校を決定する最も重要な保護者会です。万障繰り合わせのうえ、ぜひともご参加いただけますようお願い申し上げます。

2007年9月10日

進学塾ビッグバン 松原好之(文責)